

1. 略歴

1974年3月	群馬県立前橋高等学校卒業
1974年4月	静岡大学人文学部人文学科入学
1978年3月	静岡大学人文学部人文学科卒業
1978年4月	静岡大学人文学部人文学科研究生
1979年3月	静岡大学人文学部人文学科研究生修了
1979年4月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻博士課程入学
1986年3月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻単位取得退学
1986年4月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻研究生
1987年12月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻研究生修了
1988年1月	国立歴史民俗博物館考古研究部助手
1996年4月	国立歴史民俗博物館考古研究部助教授
2004年4月	駒澤大学文学部歴史学科助教授
2006年12月	博士（文学）取得（筑波大学）
2007年4月	駒澤大学文学部歴史学科教授
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本考古学

b 研究課題

- (1) 縄文時代から弥生時代への移行問題の研究
- (2) 縄文・弥生時代の葬墓制の研究
- (3) 縄文・弥生時代の通過儀礼の研究

c 概要と自己評価

上記の(1)に関して、土器の表面における圧痕のレプリカを採集し、顕微鏡観察することにより穀物栽培の開始期とその状況を明らかにする基礎研究を関東地方を中心に行った。その結果、分析試料には弥生時代以前に穀物はなく、弥生時代になると稲よりもむしろアワ、キビの雑穀類が主体的にあらわれることが判明した。2013年度より科学研究費基盤研究A「植物・土器・人骨の分析を中心とした日本列島農耕文化複合の形成に関する基礎的研究」のテーマで、植物種子圧痕の研究を基軸に、日本列島の農耕文化複合の形成の特質を東アジア的な視野から分析することを目指した研究をスタートさせ、2015年度をもって終了した。(2)に関して、愛知県田原市保美貝塚の発掘調査を行い、盤状集骨という特異な埋葬を検出し、調査し縄文晩期の葬墓制の特質を明らかにする手掛かりを得たが、その結果をまとめつつある。(3)に関して、科学研究費基盤研究(C)「人物造形品の集成と分析にもとづく弥生時代の儀礼と社会組織に対する基礎的研究」の研究を推進したが、その結果をまとめつつある。

d 主要業績

(1) 著書

単著、設楽博己、『縄文社会と弥生社会』、敬文舎、2014.5

編著、設楽博己・植月学・賀来孝代・小林青樹・新美倫子・北條朝彦、『十二支になった動物たちの考古学』、新泉社、2015.12

(2) 論文

設楽博己、「「考古ボーイ」の絶滅危惧種化を憂う」、『東京大学進学ガイダンス2014』、207-209頁、2014

設楽博己、「最近の弥生文化研究に思うこと」、『栃木県考古学会誌』、35、1-24頁、2014.3

設楽博己、「講演会報告 邪馬台国はどこか？—イレズミから考える私の仮説—」、『茨城史学』、49、32-44頁、2014.3

設楽博己、「縄文農耕と弥生農耕」、『学士会会報』、907、16-20頁、2014.7

設楽博己、「弥生文化と農耕文化複合」、『企画展示 弥生ってなに?!』、108-109頁、2014.7

設楽博己・守屋亮、「レプリカ法による縄文後期後半～弥生前期の土器の種実圧痕調査」、『SEEDS CONTACT』、2、2-5頁、2014.8

- 設楽博己、「写真による歴史の証人 収蔵品紹介 柳田國男が集めた石器と土器」、『歴博』、187、20-23 頁、2014.11
- 設楽博己、「原秀三郎先生と考古学」、『學縁 原秀三郎先生傘寿記念文集』、61-65 頁、2014.12
- 設楽博己、「縄文時代の再葬墓と弥生再葬墓」、『季刊考古学』、130、65-68 頁、2015.2
- 設楽博己、「弥生時代の松戸」、『松戸市史』、上巻（改訂版）原始・古代・中世、329-347 頁、2015.2
- 設楽博己、「弥生時代の始原—農耕文化の複合体—」、『歴史の「常識」をよむ』、20-23 頁、2015.3
- 設楽博己、「公開講演会 柳田國男と考古学」、『民俗学研究所紀要』、39、1-28 頁、2015.3
- 設楽博己・佐々木由香・國木田大・米田穰・山崎孔平・大森貴之、「福岡県八女市岩崎出土の炭化米」、『東京大学考古学研究室紀要』、29、147-156 頁、2015.3
- 設楽博己、「弥生時代における祖先祭祀の諸形態」、『弥生研究の交差点—池田保信さん還暦記念—』、みずほ別冊 2、135-144 頁、2015.5
- 設楽博己、「浮線網状文土器の基準資料—静岡県御殿場市宮ノ下遺跡の土器をめぐって—」、『駒澤考古』、40、45-57 頁、2015.6
- 設楽博己、「辰」、『十二支になった動物たちの考古学』、新泉社、59-74 頁、2015.12
- 設楽博己、「申」、『十二支になった動物たちの考古学』、新泉社、119-132 頁、2015.12

(3) 学会発表

- 国内、設楽博己、「今年度の成果」、設楽科研 2013 年度成果報告会、上越市埋蔵文化財センター、2014.3.28
- 国内、設楽博己、「柳田國男と考古学」、成城大学民俗学研究所 平成 26 年度公開講演会、成城大学 3 号館 2 階 321 教室、2014.5.31
- 国内、設楽博己・簗原泰彦・工藤雄一郎・熊木俊朗・高瀬克範・福田正宏・山田康弘・林正之、「柳田國男の収集した考古資料」、一般社団法人 日本考古学協会第 81 回総会研究発表、帝京大学 17 号館 2 階 1722 教室、2015.5.24

(4) 研究報告書

- 設楽博己、「西新井遺跡第 4 地点—老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—」、2・6-10・14、2014.7

(5) 予稿・会議録

- 国内会議、設楽博己、「節分の豆まきから卑弥呼を考える」、金鶏会公開講座考古学シリーズV、金鶏会館宝形塔屋講義室、2014.4.19
- 国内会議、設楽博己、「考古学で決めた！邪馬台国」、埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会講演会、埼玉県立歴史と民俗の博物館、2014.4.27
- 国内会議、設楽博己、「日本列島における弥生時代の青銅祭器」、生涯学習応援団千葉主催リレー塾 銅鐸の謎に迫る、ホテルポートプラザちば、2014.10.5
- 国内会議、設楽博己、「東名遺跡からみえる縄文の精神文化」、「東名シンポジウム 東名遺跡からみえる縄文の世界—激変する環境を生きぬいた縄文人たちの足跡—」、佐賀県立美術館ホール、2014.11.8
- 『東名シンポジウム資料 東名遺跡からみえる縄文の世界—激変する環境を生きぬいた縄文人たちの足跡—』、18-21 頁、2014.11
- 国内会議、設楽博己、「東名遺跡からみえる縄文の精神文化」、「平成 26 年度東名遺跡シンポジウム 2014 東名遺跡からみえる縄文の世界—激変する環境を生きぬいた縄文人たちの足跡—」、2014.11.8
- 『平成 26 年度東名遺跡シンポジウム 2014 東名遺跡からみえる縄文の世界—激変する環境を生きぬいた縄文人たちの足跡—記録集』、99-118 頁、2015.3
- 国内会議、設楽博己、「仮面と黥面の考古学」、「平成 26 年度考古学ゼミナール 暮らしを考える—装う—」、神奈川県民センター、2014.11.15
- 『平成 26 年度考古学ゼミナール 暮らしを考える—装う—』、11-12 頁、2014.11
- 国内会議、設楽博己、「弥生の始まりと静岡県」、静岡県高等学校社会科教育研究協議会西部支部歴史部会研修会、静岡県立掛川西高等学校百周年記念館、2014.11.19
- 国内会議、設楽博己・簗原泰彦・工藤雄一郎・熊木俊朗・高瀬克範・福田正宏・山田康弘・林正之、「柳田國男の収集した考古資料」、一般社団法人 日本考古学協会第 81 回総会、帝京大学 17 号館 2 階 1722 教室、2015.5.24
- 『一般社団法人 日本考古学協会第 81 回総会研究発表要旨』、74-75 頁、2015.5

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

- 非常勤講師、駒澤大学文学部、「考古学特講VII」2015.4～
- その他、SBS学苑パルシェ校、「縄文人は骨をどのように扱ったか—愛知県保美貝塚の調査を通じて—」、2014.3

その他、朝日カルチャーセンター新宿、「弥生文化とはなにか」、2014.5～2014.6

その他、朝日カルチャーセンター新宿、「古代日本を発掘する 墓からみる弥生文化の特色」、2014.9

セミナー、明治大学リハビリタワー1031 教室、「第 99 回歴博フォーラム 縄文時代・文化・社会をどのように捉えるか 総括コメント」、2015

セミナー、柏原市歴史資料館、「縄文晩期のまつり—大阪平野と東日本の比較から—」、2015.2

特別講演、袖ヶ浦市教育委員会、「銅鐸と小銅鐸」『袖ヶ浦市遺跡発表会特別講演』、2015.6

その他、SBS学苑パルシェ校、「顔の考古学」『古代史探訪「顔の考古学」』、2015.6

セミナー、あがたの森文化会館、「松本の弥生時代の始まり」『第 37 回あがたの森考古学ゼミナール』、2015.7

その他、朝日カルチャーセンター横浜、「あたらしい弥生時代像」『日本考古史 10 講』、2015.9

特別講演、大阪府立弥生文化博物館、「縄文稲作はあったのか?」、2015.11

特別講演、大垣市歴史民俗資料館、「東町田遺跡にみる絵画土器—僻邪視文をめぐって—」、2015.11

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

教育機関、調布市教育委員会、調布市史跡下布田遺跡調査評価委員、2015.4.1～2017.3.31

教育機関、千葉市教育委員会、史跡整備保存委員会委員、2015.5.1～2017.4.30